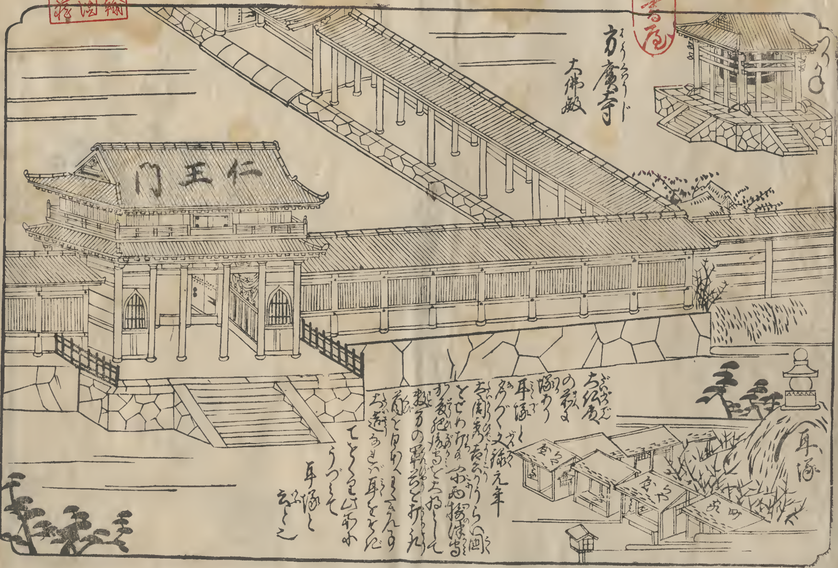
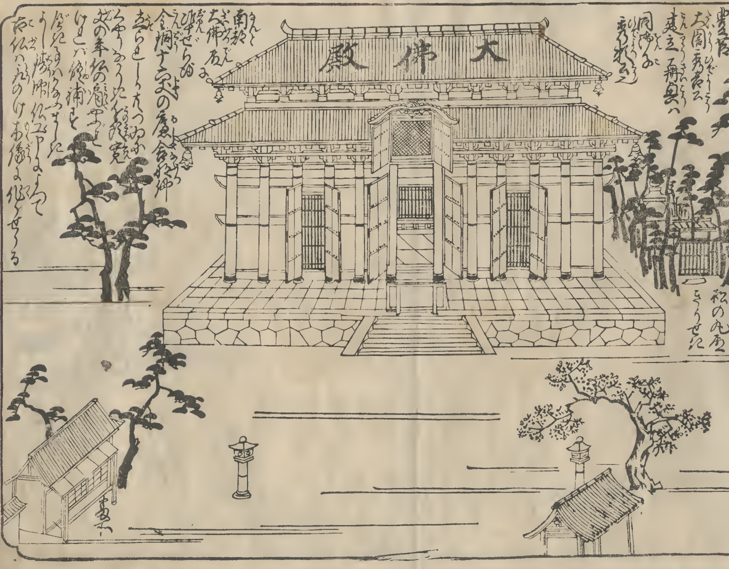
寶永

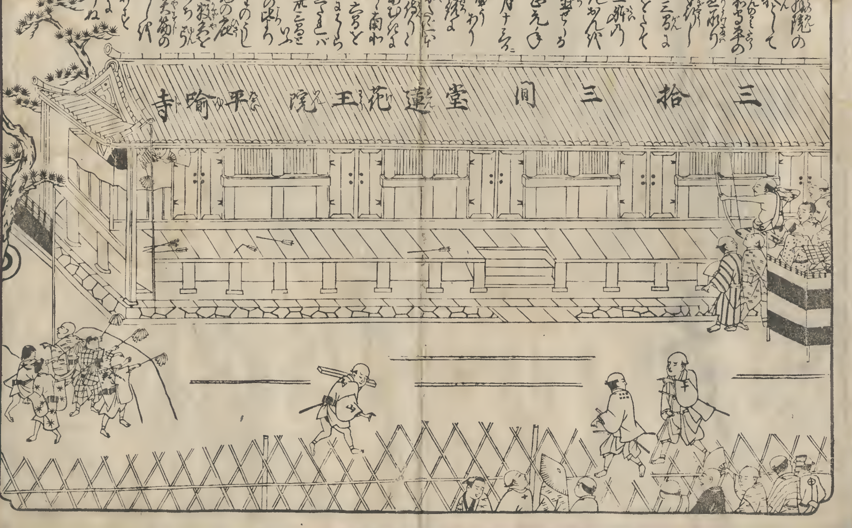
# 華洛細見圖

八


方廣寺
大佛殿
仁王門
耳塚
大仏殿の前に耳塚あり
耳塚ハ文禄元年
太閤秀吉公朝鮮国
とせめ給ふの小西摂津守
加藤肥後守清正をはじめ
数万の軍勢をおくられ
首を切りまをんする
ときあまた耳をそだ
てもちかへり此所に
うづめて
耳塚と
いふ也


大佛殿
天正十六年
豊臣
太閤秀吉公
建立

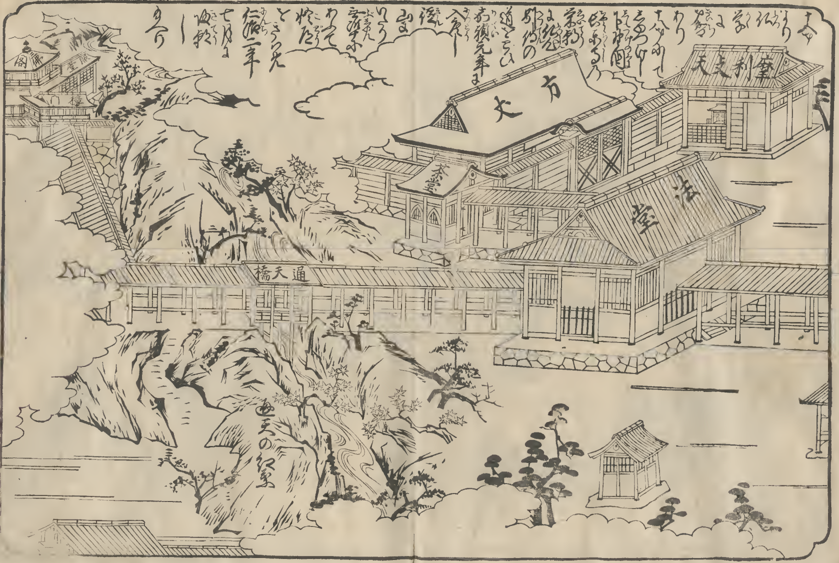
れんげ院の
御願として
後白河帝の
御建立なり
その後再建し
三十三間よ
いふとそ
一千一躰の
くわんおんは
安置せらる
天正元年
三月十六日
ふたゝび
再建よ
棟木をかけしな
まそ作りく
かぶもなよ
よそ南わ
六十六間と
二百まうち
とさきとハ
せまた三百といふ
いろの此ろ
や堂のうし
ろ為の庭
まて数多を
ちうちらん
数矢数の
こなし代
まかうと
するよ
ありね




智積院
大日堂


泉涌寺
寺領 六百八十石
舎利殿
浄佛殿
勅願所
浴室
泉涌水
再興


慧日山東福寺
成就宮
佛殿
山門
僧堂


摩利支天
方丈
法堂
通天橋
通天の紅葉
楼門


毎年通天橋乃
紅葉の比ハ開山
聖一の忌日にて
十月十六日より
法要あり



稲荷社 社領百六石
元明天皇
和銅年中
本社
若宮
みこしや
弁才天
大神宮
白狐の社

# 稲荷祭

此まつりハ毎ねん三月午の日よ御旅所へ神輿を出しまつり月にて卯の日祭礼の行列あり稚子の騎者太鼓鉦鼓陰陽を神輿のともなり獅子ハしくう西びんかしくしもどし先見物人一興をもよほすとかや





さいでん
社領二百石
称徳天皇神護景雲年中に造営
天平宝字三年に
祭礼ハ五月五日之



深草祭
光仁てんわうハ
ゆうこく異国の蒙古
せめ来らんとしけれ
ハて早良親王を
大将軍として
勅をくだし給ひ
出陣ましまし
奉幣ありて
五月五日出陣し
給ひしに
神威あらたにありて
蒙古一戦に
うちほろぼされ
けり
このときの
軍勢の
さまを
まなひなすと也